

日程第3 代表質問

○議長（村田進洋君） 次に、日程第3の代表質問に入ります。

それでは、ただいまから、通告により代表質問を許します。

1番 鶴田都子君。

〔1番 鶴田都子君登壇〕

○1番（鶴田都子君） 常磐大学コミュニティ振興学部の鶴田都子でございます。水戸市女性議会2016の開催に当たり、砂金ゼミナールを代表して、通告に従い、質問いたします。

まず初めに、2019年いきいき茨城ゆめ国体開催へ向けた、水戸市における交通政策・対策についてお伺いいたします。

いきいき茨城ゆめ国体開催までおよそ3年となり、水戸市においても国体推進課が設置され、第74回国民体育大会水戸市開催推進総合計画を策定し、開設準備業務が進行されています。国体が開催されると、国体に出場する選手や関係者が茨城県の県庁所在地である水戸市を訪れ、交通量が増加することが推測できます。しかし、水戸市は車社会であり、自動車交通量が多く、公共交通利用者は比較的少ない現状にあります。また、自動車と公共交通の路上での共存や交通ネットワーク形成も課題となっております。

いきいき茨城ゆめ国体開催における水戸市の方針として、水戸の魅力を発信し、水戸の特色を生かしながら、おもてなしの心で大会をつくるという方針がありますが、それらを実現するに当たり、まずは茨城県の窓口となり得る水戸市において、選手にとって不可欠である交通利用に関しての対策が必要ではないかと考えます。国体開催を契機として、水戸を訪れる人にとっても、水戸市民にとっても利便性が高く、わかりやすい交通結節点を構築すること、また、それぞれの移動の安全性を確保することは重要であると考えます。

ここで、御質問いたします。

水戸市において、国体時に訪れる人々に向けた交通対策や輸送システムが、現在、どの程度検討されているのか、また、あらゆる利用者にとってわかりやすく、さらに、安心して利用できるようにするための公共交通政策が、何か具体的に検討されているのか、お伺いいたします。

さらに、いきいき茨城ゆめ国体開催直後には、障害者スポーツ大会である、いきいき茨城ゆめ大会が開催されます。水戸市においても、身体障害のある選手と知的障害のある選手が出場できるフライングディスク競技が、ケーズデンキスタジアム水戸で開催されます。

水戸市公共交通基本計画によると、水戸市では、全ての人に優しい移動空間の創出を目指し、バリアフリー化を進め、ユニバーサルデザイン導入を図っています。具体的には、駅構内のエレベーター設置や超低床ノンステップバス導入の促進が挙げられます。これらは年を追うごとに進行しております。

しかし、私は、昨年、水戸市内で開催された視覚障害者向け卓球大会にボランティアとして参加した際に、視覚障害のある方が、苦労しながら公共交通機関を利用する姿を多く見かけました。私自身も、視覚障害者の方々とは初めて接し、バスの乗り降りサポートや障害者料金の把握などに苦労した経験があり、利用しやすく、安全な公共交通の重要性を感じた次第です。

ここで御質問いたします。

いきいき茨城ゆめ大会開催へ向けて、障害者の移動の安全の確保をどうしていくべきか熟慮すべきだと

私は考えますが、水戸市におけるバリアフリーの課題と今後の解決策をお伺いいたします。

最後に、水戸市における女性活躍推進に向けたキャリア教育についてお伺いいたします。

今年4月1日から女性活躍推進法が施行され、女性が働いて活躍できる社会の構築が進んでおります。具体的には、女性の活躍推進に関する状況が優良な事業所に「えるぼし」マークを認定することや、女性活躍推進法に基づき、従業員数301人以上の企業に事業主行動計画の策定を求めることなどが実施されています。

水戸市においても、水戸市女性活躍推進ガイドブックを作成し、市内企業へ女性活躍を促すことなどが実施されています。女性が働く社会の流れが確立されれば、市場活性化や生産性の向上が期待できます。しかし、水戸市内の働く女性に注目すると、非正規採用として働く女性の割合は半数以上であり、離職者や若い世代への支援が今後の課題となって挙げられています。

また、近年では、仕事を初め、家事と育児の両立に追われ、サポート的な業務しか割り当てられなくなるマミートラック現象も注目されています。

働く女性の数は増えていますが、女性たち自身のキャリアへの満足度が比例しているのか、仕事と家庭生活の双方の両立や充実化を図ることができているかに疑問を感じます。また、女性のライフスタイルはさまざまであり、具体的な女性たち自身の将来像が正確にイメージしづらいという現状があるのではないかと感じます。

ここで、御質問いたします。

水戸市男女平等参画推進基本計画によると、水戸市では、女性活躍の流れが浸透するようキャリア教育が実施されていますが、どのような現状であり、具体的にどのような成果が期待できるとされるのかをお伺いいたしまして、質問を終わらせていただきます。

明快な御答弁をよろしくお願ひいたします。

ありがとうございました。

○議長（村田進洋君） ただいまの質問に対する答弁を求めます。

市長、高橋靖君。

〔市長 高橋靖君登壇〕

○市長（高橋靖君） 常磐大学コミュニティ振興学部砂金ゼミナールを代表いたしましての鶴田議員の御質問にお答えをいたします。

2019年に開催される、いきいき茨城ゆめ国体では、11日間に全国から3,000人以上の選手関係者が水戸市に滞在するほか、多くの観覧者が各競技会場を訪れるものと見込んでいます。

私は、今年の岩手国体において盛岡市を視察した際に、駅案内所の丁寧な対応と適切な案内表示に基づき、実際に競技会場までシャトルバスを利用してまいりました。

安心して利用できる輸送環境の整備とわかりやすい案内サービスの重要性を改めて認識したところでありまして、本市もそのように努めていかなければならないと認識をいたしております。

まず、安心して利用できる輸送環境の整備についてでございますが、国体期間中に当たっては、臨時の輸送体制を構築してまいりたいと考えています。選手関係者については、競技団体からの要望やチーム単位

で移動することを考慮して、借上バスまたはタクシーで輸送し、また、観覧者については、水戸駅から各競技会場までの路線バスまたは利便性の高いシャトルバスでの輸送を計画いたしております。この計画では、国体期間中に、延べ約200台以上のバスが新たに市内に乗り入れることとなりまして、特に水戸駅周辺及び会場周辺には渋滞が起こる可能性もございます。そのため、時間別、地区別の交通量や渋滞箇所に関する調査を実施した上で、バスの発着時間や輸送経路を分散するなど、交通量の調整、競技会場の出入り口の分散、さらには道路工事等の抑制など、渋滞対策を図っていきたいというふうに考えております。あわせて、市民の皆様に対しても、国体開催に伴う交通情報の提供や、マイカー使用自粛を呼びかけてまいります。

次に、わかりやすい案内サービスについてでございますが、国体開催の期間中には、水戸駅に特設の案内所を設置するほか、ホームページなどによりまして、全国から訪れる多くの観覧者の視点に立った案内情報を提供してまいります。

また、現在、本市では、公共交通基本計画に基づきまして、わかりやすい公共交通を実現する取り組みに着手したところでございます。国体開催を契機といたしまして、路線バスの行先や時刻などの運行情報を、初めて水戸を訪れる方にもわかりやすく提供する仕組みを構築してまいりたいと考えています。

2点目の全国障害者スポーツ大会、いきいき茨城ゆめ大会開催を前提とした、水戸市のバリアフリーの今後の展望についてでございます。

本市では、平成16年に策定をいたしました交通バリアフリー基本構想に基づきまして、水戸駅を中心とした重点整備地区におきまして、水戸駅を初め、ペDESTリアンデッキ、駅前広場、道路、信号機などのバリアフリー化を進めてまいりましたが、さらなるバリアフリー化を推進するため、新たなバリアフリー基本構想の策定に本年度着手をいたしました。

全国障害者スポーツ大会における選手輸送につきましては、可能な限り、それぞれの障害に配慮した環境整備と十分な安全対策を講じてまいります。全ての方々に超低床ノンステップバスを初めとした最適な交通手段を準備するには限界がございます。そのため、他県での大会で実施されました、補助係員や手話、筆記、筆談、音声などでコミュニケーションを支援するボランティアの配置を基本としつつ、新たな人的支援の充実を図ってまいりたいと考えております。

このような取り組みの効果を最大限に発揮させるためには、まず、大会開催の意義を市民にわかりやすくPRすることにより、水戸市全体でおもてなしの気持ちを表すことが必要でございます。さらに、特定の係員やボランティアだけではなく、市民一人一人が思いやりの気持ちを持つことが重要でありまして、私は、心のバリアフリーを推進することが、本市のバリアフリー施策における一番重要な課題であると考えています。

誰もが安全かつ快適に移動し、施設を利用できるようにするためには、段差をなくすなどのハード整備が必要ですが、これらの整備の効果を高めるためには、市民一人一人が支え合いの精神を持って、移動に不自由な方に出会ったときに、すぐ手を差し伸べられるような、心のバリアフリーが実現されなければならないというふうに考えています。

新たなバリアフリー基本構想の策定に当たっては、3年後の全国障害者スポーツ大会の開催を好機と捉えまして、道路や建築物などのバリアフリー化を推進するとともに、市民一人一人が心のバリアフリーを心

かけることで、人々が相互に協力し合う地域社会を実現することができるように、取り組んでいきたいと考えております。

次に、女性活躍推進に向けたキャリア教育についてでございます。

本市におきましては、ただいま御指摘のとおり、働く女性の半数以上がパートや派遣労働者などの非正規雇用者でありまして、また、事業所における女性管理職の割合が10%程度と低い状態でございます。これらの背景には、女性の多くが結婚や出産、育児などのライフイベントにより、みずからのキャリアを諦めてしまう実情があるのではないかと認識をいたしております。

こうした現状を変えていくためには、まず、事業所みずからが、女性が働きやすく活躍できる職場環境づくりをしていくことが最も重要です。それに加えて、これから社会に出ていく若者が、ライフイベントと仕事の両立についての意識を変えていくことが大変重要であると考えております。

そこで、みずからのキャリアデザインを具体的にイメージできるよう、昨年度から茨城大学や常磐大学と連携し、ワーク・ライフ・バランスに基づいたキャリアセミナーを実施しております。昨年度は、茨城大学では、仕事と家庭の両立を実践してきた女性によるシンポジウムを実施し、また、常磐大学では、リスクマネジメントや政治学の観点から、キャリアデザインを具体的に学ぶ講座を実施いたしました。延べ256人の学生に参加していただきました。

これらの取り組みによりまして、女性がみずからのキャリアデザインを具体的にイメージできるとともに、男性にとっても、将来のパートナーのキャリアデザインや自分自身のワーク・ライフ・バランスを考えることができ、男女平等参画意識の醸成につながるものと考えております。

私は、女性の活躍推進のために最も重要なことは、事業所みずからが、いかにして女性が働きやすい環境づくりをしていくかであると認識をいたしております。

市内には、事業所内の保育施設を整備したり、女性活躍推進法に基づく「えるぼし」認定を取得したりするなど、率先して女性が働きやすい環境づくりに取り組んでいる事業所がございます。そこで、こうした優良事業所の取り組みが他の事業所の模範となるように、広報、啓発に努め、事業所の規模に関わらず、女性が活躍できる環境づくりへ取り組むよう、積極的に支援をしてまいりたいと考えています。

さらに、女性が生き生きと働くためには、男性の意識改革や長時間労働を前提とする男性中心型の労働慣行の変革が不可欠であります。今後も、さまざまな機会を捉えて、市民、事業所や関係機関等と連携をしながら、協力をより一層深めて、女性が働きやすく、活躍できる社会の実現に向けて、積極的に取り組んでまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（村田進洋君） 2番、永元万貴君。

〔2番 永元万貴君登壇〕

○2番（永元万貴君） 茨城大学の永元万貴でございます。水戸市女性議会2016の開催に当たり、人文学部田中耕市ゼミナールを代表して、通告に従い、質問いたします。

私は、日本が人口減少社会へと転換したことを受けて、水戸市も既存の施設を有効活用するコンパクトシティ化をより進めていくべきと考えております。そのためには、中心市街地の都市機能の維持、強化が必須